

努力事項 その1 (美術)

「学校教育指導の重点」の美術の努力事項をひとつずつ考えていきます。今回は、学習指導要領の内容に照らして、以下について考えてみます。

目的に応じたスケッチの活用を工夫し、育成する資質や能力を踏まえて、表現の能力を総合的に培っていけるよう、計画的に学習できるようにする。

1 「目的に応じたスケッチの活用を工夫」するとは？

目的に応じたスケッチの活用を工夫するとは、

見る力や感じ取る力、考える力、描く力などを育成するために、スケッチの学習を効果的に取り入れる

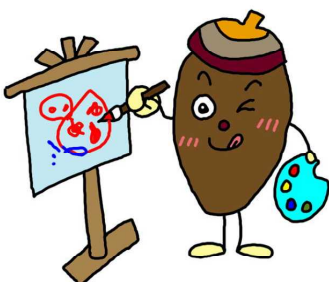
ということです。

スケッチについては、以下の効果があります。

- 表現の喜びを味わうことができる。
- 描く力だけでなく、見る力や感じ取る力、考える力などを育成することができる。

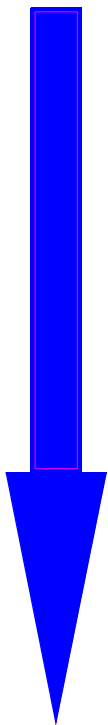
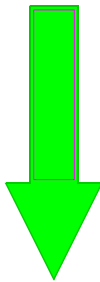
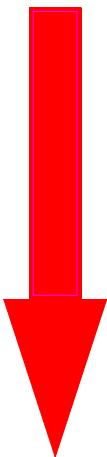
スケッチは、作品の発想や構想、完成、発表や交流までのあらゆる場面で必要な学習なので、その重要性を認識し、表現の能力を育成するために、効果的に取り入れる必要があるとされています。

(中学校学習指導要領解説美術編より)



2 「育成する資質や能力を踏まえて、表現の能力を総合的に培っていける」ようにするには？

育成する資質や能力を踏まえてとは、
「スケッチの学習で身につけることができる資質や能力のうち、何を身につけさせようとするのかを明らかにして、計画的にスケッチの学習を取り入れましょう。」
ということです。スケッチの学習で身につけることができる資質や能力は下の図のとおり、3つあるとされています。
総合的に培っていけるようにするには、感じ取ったり、考えたり、描いたりする力それぞれを育成するスケッチの学習をバランスよく取り入れてそれぞれの能力が互いに補完しあうようにしていきましょうということです。



自然や人物、ものなどをじかに見つめて、諸感覚を働かせ、様々な視点から対象をとらえて描くスケッチ

自然や対象の美しさ、造形的な面白さ、情緒、生命感やものの存在感、美の感動や不思議などを感じ取ることを重視

見たことや思いついたアイデアなどを描きとめ、イメージを具現化するための発想や構想を練るスケッチ

多くのアイデアを出しイメージや考えを広げながら、それらを組み合わせたりまとめ上げたりすることを重視

伝える相手の立場に立って、伝えたい情報を分かりやすく絵や図に描くプレゼンテーションとしてのスケッチ

必要な情報を選択し、単純化や強調しながら必要な伝達の意図が明確に伝わるように構成することを重視

次回は、図画工作の重点「児童が自分の思いや願いの具現に向け、自らの判断や選択によって主体的に表現できるよう、材料や表現方法を選択・決定できる場や機会を保障しましょう。」について考えてみます。

6月7日（金）頃アップの予定です。

月
日
曜日

